

和歌山県沿岸で捕獲されたホクロヤッコとハナフエフキ

山本泰司¹⁾・加藤哲哉¹⁾・太田 満¹⁾・荒賀忠一²⁾

Records of two fish specimens, *Holacanthus ciliaris* (Pomacanthidae) and *Lethrinus ornatus* (Lethrinidae) from the southwestern coast of Kii Peninsula, Japan

Taiji Yamamoto¹⁾, Tetsuya Kato¹⁾, Mitsuru Ohta¹⁾ and Chuichi Araga²⁾

1) 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459)

2) 〒649-2334 和歌山県西牟婁郡白浜町才野 1293-1

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所水族館 (京都大学白浜水族館) では、もっぱら紀伊半島南西部に生息する沿岸生物を飼育展示している。これらの収集活動の中で、2008 年 11 月に相次いで特筆すべき魚類 2 種各 1 尾が入館したのでここに報告する。

ホクロヤッコ

Holacanthus ciliaris (Linnaeus, 1758)

(図 1)

標本の測定・計数値: 全長 (尾鰭後端欠損) 220.1 mm、体長 184.0 mm、体高 107.2 mm、頭長 49.7 mm、眼径 12.1 mm、吻端～背鰭後端 (欠損) 222.0 mm、吻端から尻鰭後端 246.2 mm、吻長 23.8 mm、尾柄高 27.6 mm、D XIV, 20; A III, 20; P 19

ホクロヤッコは、バハマ諸島～ブラジルに分布する大西洋産のキンチャクダイ科魚類である (松浦, 1983)。わが国では本種は、アメリカ合衆国やブラジルなどから輸入された魚が高級熱帯海水魚として流通していることから、クィーンエンゼルフィッシュ (Queen angelfish) として熱帯性海水魚の飼育愛好家の間で有名である。またカリブ海方面での観察対象魚の一つとしてダイバーの間でもよく知られている。

今回捕獲された個体は、2008 年 11 月 6 日、和歌山県白浜町臨海沖 (田辺湾口南部) の水深約 10m に渡瀬政雄氏 (白浜町、漁業) が仕掛けたイセエビ刺網にかかったもので、当日、水族館に生きた状態で搬入したが、11 日に網にかかった傷がもとで死亡した。

本種は成長すると全長 18 インチ (=45.7 cm) に達する (Randall, 1968) ことから、本個体はまだ若魚と思われる。生時の体色については、頭部や体側にある青色の横縞や眼を通る褐色帯などの幼魚に特徴的な斑紋はまったく見られず、後頭部には青色で縁取られ、中に小青色点が散在する黒色斑があること、背鰭と尻鰭の後部軟条が糸状に延長して尾鰭先端を越すことなど、すでに成魚の特徴をよく現していた。

地元のダイビングショップによると、臨海沖のダイビングスポットである、砂地で囲ま

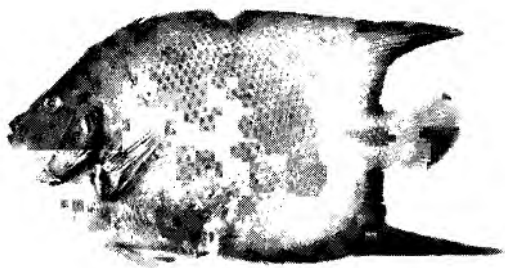


図 1. ホクロヤッコ (全長 220.1 mm. 尾鰭、背鰭後端欠損)

れた岩礁（通称「クエガンコ」、約 200 m²、水深 5～13m）で、2007 年 10 月から、成魚の体色をしたホクロヤッコが継続的に目撃されてダイバーの間で人気者になっていたが、本個体の捕獲後は見られなくなったとのことである。網を仕掛けたとされる場所とこのダイビングスポットの岩礁が一致することから、これらは同一個体であると思われ、一年以上に及んで特定の岩礁に棲みつき、越冬したことになる。ちなみに、水族館に引き込んでいる海水の 2008 年の最低温度は 13.1℃（2 月 18 日）、2 月の平均最低温度は 14.6℃であった。

本個体の生息については、船舶のバラスト水に紛れ込んだ稚仔魚が運ばれてきて成長したという可能性も考えられるが、砂地によって隔離された岩礁で、突然、若魚が出現したことから、飼育愛好家が飼いきれなくなつて、付近の海に放流した可能性が高いと思われる。

ハナフエフキ

Lethrinus ornatus Valenciennes, 1830

（図 2）

標本の測定・計数值：全長 144.4 mm、体長 116.3 mm、体高 48.9 mm、頭長 37.4 mm、眼径 10.7 mm、吻長 19.1 mm、尾柄高 14.5 mm、D X, 9; A III, 8; P 13; TRac 6; LLp 47

ハナフエフキは、沖縄県以南、東インド・西太平洋に分布し、全長 30 cm になるフエフキダイ科魚類で（島田、2000）、和歌山県沿岸からの採捕記録は見当たらない。

今回捕獲された個体は、筆者の一人である荒賀が 2008 年 11 月 11 日に和歌山県白浜町の日置川河口で釣獲したもので、翌日に生きた状態で水族館に運び込まれたが、17 日に死亡した。

体色については、眼窩、前・主鰓蓋骨縁辺が鮮赤色を呈し、体側にはやや不明瞭な 5 条の橙色縦帯があり、益田ほか（1975）や佐藤

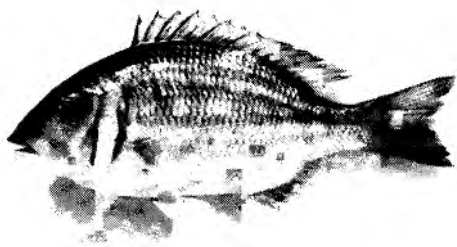


図 2. ハナフエフキ（全長 144.4 mm）

（1984）の記載とよく一致する。

本個体は、その大きさから 2008 年生まれの幼魚で、他の多くの死滅回遊魚と同様、琉球列島付近の南方海域より黒潮によって稚仔魚期に運ばれて日置川河口に定着したものとされる。

謝辞

稿を終えるにあたり、臨海沖岩礁でのホクロヤッコの生息状況に関する情報をいただいた山田政志氏と、フエフキダイ類の和歌山県下での採捕に関する情報をいただいた池田博美氏に深謝する。

引用文献

- 佐藤寅夫. 1984. フエフキダイ科. in 益田一ほか編、日本産魚類大図鑑、初版. 173-175. 東海大学出版会、東京.
- 島田和彦. 2000. フエフキダイ科. in 中坊徹次編、日本産魚類検索、全種の同定、第二版. 860-866. 東海大学出版会、東京.
- 益田一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑、南日本の沿岸魚. 東海大学出版会、東京、379pp.
- 松浦啓一. 1983. ホクロヤッコ. in 上野輝彌・松浦啓一・藤井英一編、スリナム・ギアナ沖の魚類. 392. 海洋水産資源開発センター、東京、519pp.
- Randall, J. E. 1968. Caribbean reef fishes. T. F. H. Publ., Jersey City, N.J., 318pp.